

令和元年度 厚生労働行政推進調査事業費補助金（慢性の痛み政策研究事業）
分担研究報告書

慢性の痛み診療・教育の基礎となるシステム構築に関する研究
当院での多職種連携について

研究分担者 丸山 一男 三重大学大学院医学系研究科麻酔集中治療学 教授

研究要旨

当院では、多職種連携による慢性の痛みの治療と、教育の基盤となるシステムの構築を、展開中である。ペインクリニック外来には、鍼灸外来、漢方外来、慢性疼痛心理外来、理学療法外来を併設し、多職種連携・多科連携に加え、東洋と西洋の医学の統合、及び、医学と心理学の融合を目指している。2019年10月からは、学際的治療を目的とした痛みセンターを開設し、医師や看護師、薬剤師、理学療法士、作業療法士、臨床心理士、管理栄養士などの職種に参加していただき、各専門性を活かしながら、慢性の痛みの診療にあたっている。今年度からは、県内の医療従事者向けに、慢性の痛みに関する研修会を立案・主催し、あわせて、他施設との連携構築を目指している。

A．研究目的

慢性疼痛患者への治療では、医師のみならず、看護師や臨床心理士、理学療法士など多職種のチーム医療が必要である。

しかし、厚生労働省の調査によると、慢性疼痛への診療制度・人材育成・教育体制は確立されておらず、慢性疼痛に関する教育を卒前・卒後において実施することが必要とされている¹⁾。

そこで、今回は、当院ペインクリニック外来や痛みセンターにおける、慢性疼痛患者の診療状況や多職種連携を調査し、その活動実績について報告する。

B．研究方法

1) 外来診療について

2019年1月1日～12月31日にペインクリニック外来および痛みセンターにて診療した患者に対する集学的治療についての検討。

2) 痛みセンターについて

2019年10月より新設された、痛みセンターについての検討

3) 研修会による医療者教育活動について

2019年度に行った、『慢性疼痛診療体制構築モデル事業』の研修会についての検討

（倫理面への配慮）

iPadを使用した問診票は、三重大学医学部附属病院 医学系研究倫理審査委員会の承認を受け、実施している。対象の患者へ問診に

についての説明し、書面にて同意を得ている。

C．研究結果

1) 外来診療について

期間内のペインクリニック外来全体の受診のべ数は12670、実数は860だった。そのうち、インターベンション治療は1493件（星状神経節ブロック274件、硬膜外ブロック543件、三叉神経ブロック148件、その他のブロック及びトリガーポイント注射528件）、消炎鎮痛処置等による治療は3182件だった。当外来では、患者の病態に合わせて、併設の各種外来による診察を行う（～）。

漢方外来（痛みの有無を問わず対応。）

中国伝統医学や日本漢方、及び、現代医学的エビデンスに基づく考え方で、より確実かつ臨機応変に、刻々と変化する多様な症状に対応する。期間内の受診のべ数は1684、実数は204だった。

統合医療（鍼灸）

伝統医学を現代西洋医学の現場に取り入れることで、痛みに限らず様々な状況に対し、統合的な治療とケアを提供している。期間内の受診のべ数は2505、実数は162だった。

慢性疼痛心理外来

公認心理師による心理面談を行い、痛みと心身の変化を目指す。期間内の受診のべ数は280、実数は39だった。

理学療法外来

理学療法士が身体機能・生活機能を評価し、

ADL・QOL 向上を目指した運動療法や指導を実施する。2019年4月に新設。その後の9か月間での受診のべ数は802、実数は160だった。

2) 痛みセンターについて

概要

2019年10月に発足。現時点では、ペインクリニック外来を受診後、痛みセンターでの対応を決めている。

現在、医師（整形外科専門医、麻酔科専門医、ペインクリニック専門医、精神科専門医、小児科専門医、漢方専門医）、看護師、薬剤師、栄養師、理学療法士、作業療法士、鍼灸師、臨床心理士が、概ね兼任で所属している。

症例カンファレンス

難渋する症例について、多職種でのカンファレンスを行い、各専門分野の意見を聞きながら、治療に役立っている。

痛みに関する詳細な問診

当センターでは、iPadを使用した痛みに関する詳細な問診を行っている。問診内容は、痛みの強さの評価（Numerical Rating Scale: NRS）、疼痛生活障害評価尺度（Pain Disability Assessment Scale: PDAS）、心理的ストレス評価尺度（Hospital Anxiety and Depression Scale: HADS 日本語版）、痛み破局化尺度（Pain Catastrophizing Scale: PCS 日本語版）、痛み自己効力質問表（Pain Self-Efficacy Questionnaire: PSEQ）、EuroQoL-5D（EQ-5D）日本語版、不眠評価としてアテネ不眠尺度、運動機能評価としてロコモ25、成人期のADHD（注意欠陥多動性障害）自己記入式症状チェックリスト（Adult ADHD Self-Report Scale: ASRS）、自閉症スペクトラム指数（AQ）、Zarit 介護負担尺度である。

2019年12月1日～2020年2月29日の期間の初診患者を対象にしており、現在までに14名に実施した。

3) 研修会による医療者教育活動について

三重県内の医療従事者や一般市民に向けた研修会を行い、慢性疼痛への知識・理解を広める活動を立案し、一部を実施した。

- ・三重県第1回慢性疼痛診療研修会主催
2019年12月21日
- ・市民公開講座「慢性の痛みシンポジウム」
主催 2020年2月29日（新型コロナウイルス感染拡大防止のため、開催中止）
- ・三重県第2回慢性疼痛診療研修会主催
2020年3月22日（新型コロナウイルス感染拡大防止のため、開催中止）

①第1回慢性疼痛診療研修会受講者の反応

受講人数は30名で、医師、看護師、理学療法士、作業療法士、薬剤師、臨床心理士、管理栄養士、鍼灸師といった、多職種が受講。

研修会終了後にアンケートを行った。アンケート使用を承諾いただいた25名のうち、23名が「満足」、2名が「やや満足」で、「どちらでもない」「やや不満」「不満」は、0名であった。自由記載には、「痛みの基礎から最近のエビデンスについて分かりやすく説明してもらえてよかった」「臨床場面で疼痛を訴える患者様が多いので、役立つ情報をたくさん学べた」などの意見がみられた。

D. 考察

1) 外来診療 . 当外来では、様々な職種による多方面からの治療を提供している。また、職種間での共通の患者についての意見交換や、治療方針についての相談など、多職種による連携がなされていると感じる。

2) 痛みセンター . 症例検討会を繰り返すことで、他職種の仕事の内容について、より理解が深まり、その後の医療連携にも良い影響になっていると感じる。また、iPad問診を行った患者の反応を見ると、通常診察のみと比べ、患者の満足度が高いように感じる。診察室での問診では話せる内容に限りがあるが、iPad問診票では時間をかけて記載できるため、自己の心身の状態について、より理解してもらえたと感じるのではないかと考える。ただし、説明や問診には時間を要し、運営方法については慎重な検討が必要と考える。

3) 研修会 . 三重県内では、まだ1度しか開催出来ていないが、受講者の満足度は高く、職種を超えた知見の提供に対し、高いニーズがうかがわれた。今後も多職種を対象にした研修会を継続して開催していきたい。

E. 結論

当ペインクリニック外来および痛みセンターでは、多職種による意見交換や治療に関する連携が行われている。また、研修会などをつうじ、他施設の医療従事者とのネットワーク構築を目指している。今後もこのような活動を継続し、院内外での連携を強めていく。

また、三重大学では、鈴鹿医療科学大学と合同で「地域総活躍社会のための慢性疼痛医療者育成事業」にて、多様な専攻の医療系学生に対し、学部教育の早期に、充実した慢性

疼痛の卒前教育を提供している。講義や体験型ワークショップを継続・練磨していく²⁾。

F. 健康危険情報

総括研究報告書にまとめて記載

G. 研究発表

1. 論文発表

- 1) 丸山一男 他. 痛みとは 概論. Nursing Care. 2巻2号. 195-202. 2019.
- 2) 上條史絵 他. 三重大学 / 鈴鹿医療科学大学合同教育プログラム - 慢性疼痛多職種連携医療の進展に向けて -. 三重大学高等教育研究. 25号. 9-21. 2019.
- 3) 上條史絵 他. コレクティブ・インパクト：慢性疼痛分野での多職種連携医療者を育成する事業を普及させる仕組みとしての可能性. 日本運動器疼痛学会誌 11(3): 269-277, 2019.
- 4) 中村喜美子 他. 三重大学・鈴鹿医療科学大学合同慢性疼痛医療者育成プログラム：2018年度の取り組みについて. 日本運動器疼痛学会誌 11(3): 278-284, 2019.
- 5) 上條史絵 他. 学会ブース展示によるアウトリーチ活動の研究, 三重大学高等教育研究. 26号. 47-56. 2020.

2. 学会発表

- 1) 横地歩 他. 慢性疼痛を伴う患者への「行動分析に基づく心理教育」の効果. 日本認知・行動療法学会年次大会. 2019.9. 名古屋.
- 2) 横地歩 他. 筋弛緩法の併用が奏功した口腔痛の1例. ペインクリニック学会地方会. 2019.5. 名古屋.
- 3) 上條史絵 他. 慢性疼痛多職種連携医療教育の試み (2) - ワークショップを中心に -. ペインクリニック学会地方会. 2019.5. 名古屋.

- 4) 上條史絵 他. 身体症状症が疑われる患者へのペイン外来と臨床心理士による集学的治療. 日本運動器疼痛学会. 2019.11. 東京.
- 5) 横地歩 他. セレキシパグ投与で惹起される頭痛に塩酸ロメリジンの投与を試みた一例：特発性肺動脈性肺高血圧症. 日本ペインクリニック学会年次集会. 2019.7. 熊本.
- 6) 向井雄高 他. 膵臓がん患者の訴える背部痛に対し鍼灸を行った1症例. 緩和医療学会東海・北陸支部学術大会. 2019.12. 三重県津市.
- 7) 寺田憲弘 他. 中咽頭癌頸部郭清術後の頸背部痛に鍼灸を用いた一症例. 緩和医療学会東海・北陸支部学術大会. 2019.12. 三重県津市.
- 8) 野瀬由圭里 他. 化学療法後末梢神経障害に対する灸治療の一症例. 全日本鍼灸学会学術大会. 2019.5. 名古屋.
- 9) 牛田健太 他. 運動恐怖の強い慢性腰背部痛の患者へのセルフエクササイズ継続による効果の報告. 第59回近畿理学療法学術大会. 2020.3.

H. 知的財産権の出願・登録状況(予定を含む)

- | | |
|-----------|----|
| 1. 特許取得 | なし |
| 2. 実用新案登録 | なし |
| 3. その他 | なし |

I. 参考文献

- 1) 「今後の慢性の痛み対策について」厚生労働省 (<https://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r9852000000ro8f.html>)
- 2) 慢性疼痛医療者養成プログラ (<https://www.hosp.mie-u.ac.jp/chrpain>)

研究協力者

横地 步 三重大学附属病院麻醉科 講師
牛田 健太 三重大学附属病院麻醉科
特任助教